公益財団法人
名古屋産業科学研究所　産業界のニーズをキャッチして、研究・技術開発・人材育成をサポートする機関

名産研 活動レポート

VOL.16配信
2021.1.29

中部TLOより

ヘルスケア・医療機器業界新規参入支援セミナー（第２回）を開催しました

●日時／　11月25日（水）

●場所／　名古屋大学VBL棟3階ベンチャーホール

本イベントは、経済産業省中部経済産業局の令和2年度中小企業知的財産活動支援事業費補助金を受けて企画したものです。

●事業名／
モノ語りプロジェクト(第３章):産学連携支援機関主導による特許活用ツールと新規産業分野参入支援手法の定着

会場参加:　10名
オンライン参加:　31名
企業数:　25社＋6機関

●講演1／　14:15-15:30
シミック(株)コンサルティング事業本部 :白銀英樹氏

第一部:
「医療機器業界への第一歩（B to C 編）」
～ヘルスケアにすべきか～
～医療機器にするには～

第二部:
「医療機器業界への第一歩（B to B 編）」
～医療業界は何が違うのか～
～何を知っておくべきか～

●講演2／　15:40-16:20
タキゲン製造(株)名古屋支店 :横田靖裕氏

「産業用部品から医療分野への参入」
～現場の声をカタチに～
～理想と現実～

「ヘルスケア・医療機器業界のお作法」

モノづくり企業を取り巻く社会情勢が大きく変貌しつつある昨今、自社の強みを活かして新規事業開拓することは喫緊の課題になりつつあります。その中でもヘルスケア・医療機器業界は新規参入分野として注目されています。

では、どのようにこの業界に参入すればよいか?

[講演1]では、B to C とB to B のそれぞれの参入での留意点を、[講演2]では、異業種から参入し、最前線で医療ニーズを集め、対応して気づいたこの業界の特殊事情について貴重なお話を伺いました。

↓講演会場

↓進行役:羽田野の挨拶

↓講演1のシミック(株):白銀氏

↓講演2のタキゲン製造(株):横田氏

愛知県主催の「直流給配電システム活用セミナー」に運営面のご協力をしました

●日時/　11月24日（火）
16：00～18：00

●場所/　愛知工業大学本山キャンパス2階多目的室からZoomウェビナー配信

●主催/　愛知県経済産業局 産業部 産業科学技術課 新エネルギー産業G

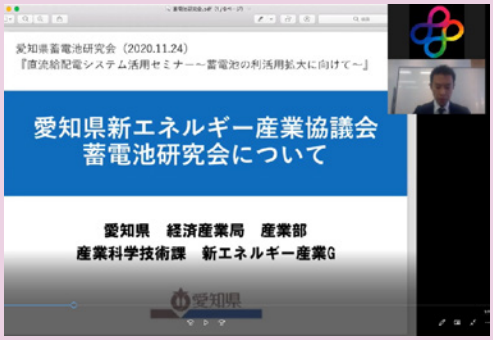
●協力/　（公財）名古屋産業科学研究所

愛知県が主催する「愛知県新エネルギー産業協議会 『愛知県蓄電池研究会』」の一環として「直流給配電システム活用セミナー」が当財団理事でもある愛知工業大学の鈴置教授が座長となって開催されました。

コロナ感染対策でweb形式での開催となりましたが、地元のエネルギー関連企業の社員の方々を中心に65名が参加され、当財団はこのweb配信を含めた当セミナーの運営にご協力させて頂きました。

（1）講演
〇16：05 ～16：50
「電力給配電における直流利活用の動向と課題」
講師：愛知工業大学 エコ電力研究センター 教授　雪田 和人 氏
〇16：50 ～17：20
「直流スマートファクトリー実現に向けた変換装置の開発」
講師：河村電器産業株式会社 研究開発部 参与　吉田 伸二 氏
〇17：20 ～17：50
「直流給配電システムの実証事例と今後の展開」
講師：株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所 SDGグループ
OESプロジェクト　森田 直 氏

（2）意見交換
〇17：50 ～18：00　座長：愛知工業大学 工学部電気学科 教授　鈴置 保雄 氏



「2020年度 循環ビジネス相談会」のアドバイザーとして、当財団の循環ビジネス創出コーディネーターがご協力しました

●日時/　12月15日（火）
13：30～16：45

●場所/　愛知県自治センター　第603会議室（6階）

●主催/　愛知県環境局
EPOC

愛知県では、環境パートナーシップ・CLUB（略称：EPOC）と連携し、先導的・効果的な循環ビジネスの創出を目的として「循環ビジネス創出会議」を開催しています。

この循環ビジネス創出会議の一環として、循環ビジネスの事業化等を考えている方が、事業化にあたっての様々な課題について、専門家やコーディネーターからなる複数のアドバイザーに直接相談し、その場で助言が得られる対話方式の「循環ビジネス相談会」を実施いたしました。

当日は公募の上選ばれた3社の相談者が事業概要や相談内容の説明を行い、アドバイザーからの助言や質疑応答が行なわれました。アドバイザーからは相談内容や質問に対し、具体的かつ積極的な助言が提示され、有意義な相談会となりました。

当財団（中部TLO）からの参加コーディネーター
藤沢　寿郎
高須　恭夫
後藤　和昌

↓会場での相談シーン

研究部より

「第39回産業科学フォーラム」を開催しました

当財団の知見交流事業として、「第39回産業科学フォーラム」をオンライン方式にて開催しました。

●日時
1月14日(木)
14:00～15:20

●講演場所
研究部事務所(本山)

●プログラム
・挨拶（14:00～14:05）
主催者

・講演（14:05～15:15）
奥宮正哉 上席研究員
（名古屋大学名誉教授）

＜タイトル＞
「低炭素・その先の脱炭素社会へ向けての民生用エネルギー消費の適正化」

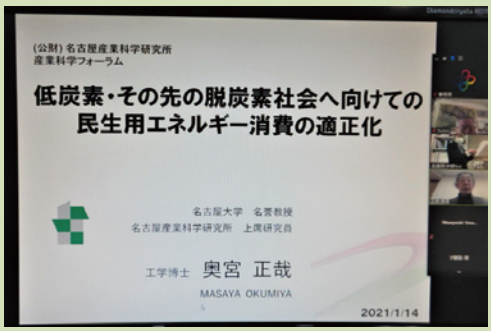
●参加者　22 名

脱炭素社会へ向けての民生用エネルギー消費の適正化のため下のスライドにあるようにできる限りの省エネルギーを達成した上で、再生可能エネルギーの利用に関して、蓄熱エネルギーを組み合わせることによる効率の向上の関する話題が中心であった。環境問題に関心のある者として、太陽エネルギーの利用に太陽電池とともに太陽熱の組み合わせにより有効利用を図るアイデアは新鮮であった。また、太陽熱利用の普及拡大を図るために、人工太陽照射装置を備え温湿度を制御できる試験室での太陽熱利用システムの性能評価技術の開発についての説明もあった。
さらに建築設備システムの運転効率の向上のためには装置容量の適正化を含む性能検証が重要であることが示され、ビル用マルチ空調機やコジェネレーション容量の最適化やシステムとしての性能検証について紹介された。
地域・広域のエネルギーシステムについて、中心市街地でのエネルギー融通の検討によってその有用性を検証した例が示された。また清掃工場排熱の活用についての検討結果も紹介されたが、こちらについてはコスト面からの難しさはあるものの、地域冷暖房の効率向上やトラックによる熱エネルギーの搬送の可能性が紹介された。
最後に再生可能エネルギー利用の観点から見た蓄熱や電気自動車（EV）の活用が示された。再生可能エネルギーは出力が変動するため、電力系統に及ぼす影響や対応を我々需要家でも十分考えておかねばならいようである。

<討論>
蓄熱システムの個人利用の展望や、電気エネルギーの水素発生への利用への今後について、コスト面などからの議論がなされた。またヨーロッパで普及している広域の熱供給ネットワークの日本での可能性について、地下埋設熱導管が生命維持に必要なインフラととらえてきたヨーロッパの歴史なども再度検証しながら、コストの問題を解決し我が国における展開も検証していくべきではないかなどが討論された。

↓講演配信中の奥宮氏

↓スライド一例



CHCより

「あいち環境塾」が環境大臣賞を受賞しました

このたび、当財団の人材育成事業を担う中部ハイテクセンターは、愛知県環境局と共に長年継続して運営してきた「あいち環境塾」の取組みが、「2020年度持続可能な社会づくり活動表彰」（主催：公益社団法人環境生活文化機構、後援：環境省）において、栄えある「環境大臣賞」を愛知県様と共に受賞しましたのでご報告いたします。

●受賞日時／　2020年11月24日（火）
●場所／KKRホテル東京（東京都千代田区）

（左から順に）
愛知工業大学 近藤元博 教授（当塾プログラム・コーディネータ）、愛知県環境局資源循環推進課 近藤浩史課長、環境省 和田篤也 総合環境政策統括官